

うるま市誕生20周年を迎えました！

合言葉は
“うるまハタチ！”

うるま市は、令和7年4月1日に、誕生から20周年を迎えました。

20年間のまちの歩みでは、新市としての都市基盤整備をはじめ、教育や福祉、子育て支援など様々なサービス・支援の充実を図り、また生活を支える雇用や産業の振興も推進してきました。その間、猛威を振るった新型コロナウイルス感染症は

市民の暮らしに大きな影響を与えましたが、これまで地域が育んできたうるまのありの

まの魅力を「感動の源泉」と位置付け、発信・共有し、また新たな魅力創造につなげるため、「感動産業特区」まちづくりを歩みはじめました。

令和7年度のうるま市誕生20周年は、まちの発展を市民とともに祝うとともに、20年を振り返り、そして市民と共にこれからのまちづくりに歩み出す大切な一年と位置づけ、市制施行20周年記念事業に取り組みます。

令和7年度の市制施行20周年は、市民と共にうるまの魅力を発信・共有し、感動の輪を広げていくため、親しみやすい印象や思わず口ずさんでしまう心地いいリズム感などを大切に、合言葉を“うるまハタチ”にしました。

写真撮影や乾杯などの掛け声を“うるまハタチ”の合言葉にしたり、SNSで“#うるまハタチ”と投稿して、20周年記念をみんなで盛り上げよう！

うるま市制施行20周年



感動産業特区

「地元との勝中学校から望む、世界遺産勝連城跡」「地域ごとにひと味違う、個性豊かな青年エイサー」「まるで格闘技を観ているかのような迫力ある闘牛」「壮大な景観に魅了される海中道路」「生産者の想いが詰まった地元ならではの食材」など、本市には「ありのまま」のすべての感動資源が「まんまうるま」として数多く存在しており、本市では、その「まんまうるま」を感動の種として大切にしています。

初演から25年目を迎える現代版組踊「肝高の阿麻和利」は、地域の中高生の子どもたちの「居場所づくり」から発足しました。子どもたちによる世代継承を経ながら、「感動産業特区アンバサダー第1号」として、子どもたちの成長とともに感動のまちづくりを体現している舞台であり、観光大使HYとともに本市の魅力発信に大きく貢献しています。

また、本市に数多くある食や製造品などの名産品、特産品は、生産者の想いととも「まんまうるまセレクション」として認定しています。